

One-Bo Plus 利用インタビュー

株式会社マネーフォワード
京都支社 京都開発拠点 様





株式会社マネーフォワード京都支社 京都開発拠点

株式会社マネーフォワード京都支社 京都開発拠点

People Forward本部 中途採用部

田鍋麗 様

株式会社マネーフォワード京都支社京都開発拠点

株式会社マネーフォワード京都支社 京都開発拠点（以下：マネーフォワード京都オフィス）は、開発拠点という事もあり、従業員の大半がエンジニアのオフィスです。「Give it a try!」という拠点コンセプトを掲げ、ユーザーのためにできることに挑戦し、成功も失敗も受け入れて成長していくことを推進しています。企業のカルチャーを体現している場所を「オフィス」と考えており、全社のカルチャー担当者と協働して、オフィス作りにも注力。京都オフィスでは畳の部屋を大きくデザインし、他にも暖簾や提灯などから和を連想させるオフィスを実現しています。

メンバーが増えて「会議室難民」問題が顕著に

マネーフォワード京都オフィスは、エンジニアが多く在籍していますが、他拠点のメンバーとも頻繁にオンラインミーティングを行っています。出社とリモートワークを組み合わせたハイブリッドワークという働き方の中、出社人数が多い日には、オンラインを含めてミーティングが重なり、会議室が不足。結果的に自席やオフィスの端で、音に気を配りながらミーティングを行っていました。

京都オフィス以外の他拠点には既にミーティングボックスが導入されていたこと、1年ほど前から京都オフィスにも導入希望の声が上がっていたこと、そして従業員の人数も増えてきたこともあり、これ以上は業務に支障をきたすのではないかと考え、遂に導入を決断しました。



One-Bo Plus購入の大きな決め手は 「サイズ感」と「遮音性」

One-Bo Plus購入の大きな決め手は2つあります。1つ目は、「サイズ感」です。オフィスは既存什器などでスペースに限りがあるため、コンパクトなミーティングボックスを中心に探していました。One-Bo Plusは幅・奥行共に1m以下ですが、室内に入ってみると、ゆったり座ることが可能です。2つ目は、「遮音性」です。前提として、「音が漏れない。中でミーティングしていることは分かるけど、話す内容は外に聞こえない。」程度の遮音性を求めています。一般的な会議室でも、大きな声で話すと音漏れはあると思うので、求めている性能のボックスはないだろうと考えていました。ですが、ショールームにて実機を体験したところ、One-Bo Plusの「遮音性」の高さに驚きました！まさに私たちが求めているボックスでした。是非、ミーティングボックスを検討している皆様には、一度 One-Bo Plusの実機を体験していただきたいです。

従業員からはたくさんの「嬉しい！」との声

お気に入りポイントは、なんといっても「遮音性」です！ボックス内壁が吸音パネルになっているため、ボックス内の話し声が漏れにくいです。One-Bo Plusの中でかなり大きな声で話した後、他の社従業員から「今大きな声で話していましたか！？話している素振りはあったけど、声が全然聞こえなくて…」と驚かれるほどです。当社のエンジニアだけでなく、一緒に入居しているグループ会社の従業員も使用しており、1日中ほぼ誰かが使用している状態です。今回、念願のミーティングボックスを設置でき、社員からは「嬉しい！」との声をたくさんもらいました。私自身も、社員からそのような声があがり One-Bo Plusを設置して良かったと思っています。

One-Bo Plusの遮音性は センシティブな場面でも、安心

現在の社会情勢に合わせ、当社も働き方のアップデートを図っていて、原則週2回の出勤頻度に変更することになりました。出勤率が上がれば、オフィスにいる従業員は増えるため、社内でオンラインミーティングをするメンバーのためのスペースが求められます。また、私のような人事関連のミーティングや1on1といったセンシティブな内容を話すミーティングの場面でも、One-Bo Plusは遮音性が高く安心して利用できるのも、今の私たちのオフィスには欠かせない存在だと思っています。

